

目的 体表面形状を明らかにした報告がなされてきたが、次の段階としてこれを衣服原型に有効な体表情報とするための分析方法を試みた。スカート原型をとりあげ、体型特徴を客観的手法で導き出す方法を検討した。

方法 被験者：青年女子（19～21才）50名。スライディングゲージ法による横断面図（胸囲線，中腰囲線（2種），腰囲線，腰部最大幅囲線，大腿部前突囲線），縦断面図（脇線，前後正中線，大腿部前突線）。マルチン式計測 25項目。胸囲線，大腿部前突囲線によって囲まれる腰部体型を六面の横断面図を重合して作成し，これを用い，図学的手法により体表面展開図形を求めた。前後正中線をタテ方向，腰囲線をヨコ方向，ダーツは前後4本，その位置は同じ条件で固定して整理し，スカート原型に対する体表情報が得られるようにした。展開方法は南日氏¹⁾，三吉氏²⁾の方法を参考とした。この体表面展開図形と，横断面縦断面，計測値で作成した腰部体型を示す重合図をもとにし，スカート原型の構成要素についての人体の形態に基づく変化と原因を数値や図形で説明することを試みる。

結果 ① 三吉氏²⁾提唱の外包囲と腰囲との差及びこの差があらわれる体型的原因と体型分布。② 胸囲線を平面に展開した形状の観察。③ 脇線（脇ダーツ）形状の個体差とその範囲，これにかかわる体型特徴。④ ダーツの長さ，位置による分量のちがいとその原因。①～④について報告し，体型に基づく平面製図法を考察する。

参考文献 1)南日朋子・他：家政誌，11，37，（1960）

2)三吉満智子：文化女子大紀要，5，87，（1973）